さようならコリー先生

光中で英語指導助手として2年間ご活躍いただいたコリー・ニケルス先生が7月28日で退任しました。中学生にとって世界を身近に感じることができ、とてもよい思い出となりました。

先生から、お世話になったみなさんへのお別れのあいさつを紹介します。

外国で暮らすようになった人がまず初めに受ける質問は「食べものは口に合いますか？」「一人でさみしくありませんか？」とか、「ここでの生活にもう慣れましたか？」ではないでしょうか。これらの質問は人々のごく自然な好奇心と純粋な関心からでています。

そうです、外国で暮らし始めることはとても大変で難しいことです。私も、日本食ならアメリカでも食べたことがありましたし、ここ日本でも数年間暮らしましたが、それでも日本に対する違和感のようなものは今でも感じています。だから毎日私は日本の生活にとけ込もうとトライしているのです。それは日本が他の国々と比べて生活が複雑だからだとか言うのではなく、日本は私が育った国と違ったところを持っているからなのです。外国の生活にとけこむことは誰にとっても永遠の課題であるに違いありません。多少生活に慣れてくればその努力の度合いは少なくなるでしょうが、依然として、日々常に学んで自分を同調させていかなければいけません。

外国で暮らし、そこの生活に慣れることで一番難しいことは、どのくらい人々とコミュニケーションが持てるかということ、特に質の高いコミュニケーションを持つことです。実際にまず困難なのは暮らしていくすべを覚えることです。例えばどこで食料品を買うかとか、住んでいる家の機器類をどうやって使うかなどです。しかしながらこれらは基礎的なものですので一度覚えてしまえばより快適に暮らせるようになるわけですが、その次は、人々とコミュニケーションを図って意志疎通をしたいという本来の思いと欲求を満たすのに努力していくわけです。この努力が外国で暮らす人にとって最も骨の折れる作業だと思います。外国で暮らしたことのある人なら見知らぬ地で自分の意志が相手に通じないことがいかにたいへんなことであるか解ってもらえることでしょう。単にその国の単語や文法を覚えるのに留まらず自分というものを外国語を通して表現していかなければならないからです。これは大変なことです。

私はここに暮らしたことで、より日本を知ることができました。以前本で読んで得た知識よりもっと深くまた個人的な理解をすることができました。日本のさまざまな一面を学べたと思います。これらの理解は私にとってとても大切なものとなっています。毎晩敷いた布団、いそがしい昼に頬ばったおにぎり、行ってみたい所へ電車に乗って出かけたことなどはなつかしい思い出となりました。また畳の匂いも決して忘れないでしょう。それから、美しかった桜の花、さい銭箱に転がっていく10円玉の音、秋にかじった梨の味も。

2年前光町に来たときの私と現在の私とでは多くのことが変わりました。私のことを歓迎してくださった方々に心からお礼を述べたいと思います。とりわけ光中学校の先生方と生徒たちに。みなさんのご親切は決して忘れません。そして私のことを家族の一員のように世話してくださった親しい友人に、生涯感謝します。

ここで経験した素晴らしい思い出と共にアメリカへ帰ります。本当に私の日本滞在を楽しいものにしてくださったみなさまへ感謝を込めて、ありがとうございました。さようなら！

Cory Nickels